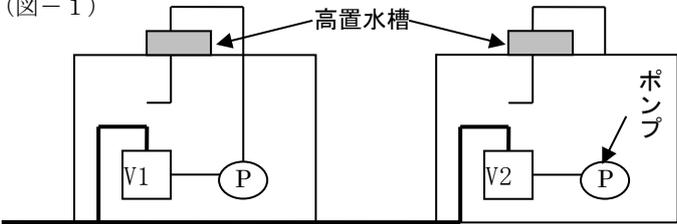
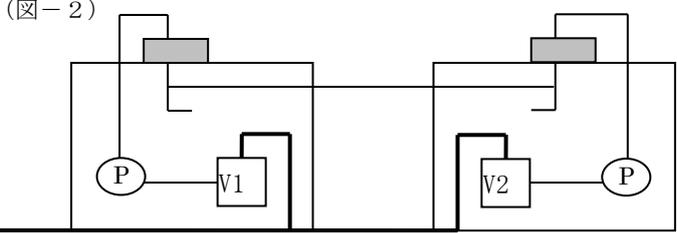
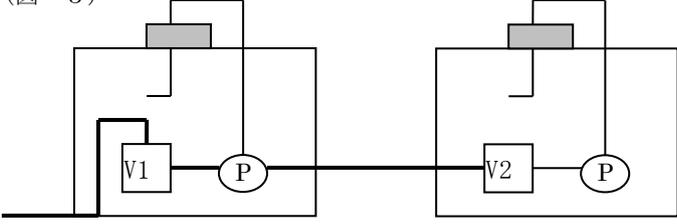
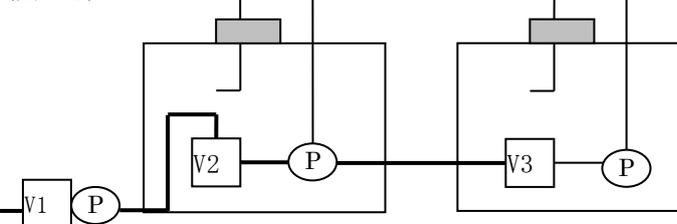
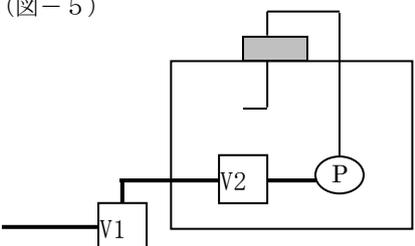


受水槽が2つ以上ある場合の有効容量の考え方

ケース	図 解	有 効 容 量
それぞれの受水槽に係る給水系統が相互に連絡されていない場合	(図-1) 	それぞれの受水槽に係る給水系統が個々の独立した簡易専用水道であることから、有効容量は、各々についてV1及びV2となる。
それぞれの受水槽に係る給水系統が相互に連絡されている場合	(図-2) 	有効容量はV1+V2となる。
それぞれの受水槽が相互に連絡されている場合	(図-3) 	有効容量はV1+V2となる。
	(図-4) 	有効容量はV1+V2+V3となる。
消防用等、飲用以外の目的に設置された受水槽と飲用に供する受水槽とが連絡されている場合	(図-5)  <p style="margin-left: 200px;">V1：消防用等 V2：飲 用</p>	有効容量はV1+V2となる。